

## 学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年8月6日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

### 発 表 事 項

1. H24年度補正予算による重粒子線装置の共同研究・開発に着手
2. 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」に採択
3. 炊飯せずにアルファ化米 製造装置の開発に成功
4. 山形県内の全ての地域金融機関と山形大学がタッグ  
ー中小企業を支援する「学金連携プラットフォーム」の発足ー
5. アフリカ地域の農業関係者が農学部で研修を開始します
6. 「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」講演会「国際法と人権」を開催

### お 知 ら せ

1. 基盤教育科目「フィールドワーク山形の酒造りと文化」 タケダワイナリーで実習
2. 第2回 最上義光没後400年記念 「最上義光シンポジウム」の開催
3. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:平成25年9月5日(木)11:00～11:30

場 所:事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年8月6日  
山形大学

## H24年度補正予算による重粒子線装置の共同研究・開発に着手

山形大学は「次世代型重粒子線装置の開発に向けた革新的技術開発」の取組として、三菱電機株式会社、株式会社東芝の二社と共同研究・開発に着手しました。

◇ 山形大学はH24年度補正予算で措置された「次世代型重粒子線装置の開発に向けた革新的技術開発」の取組として、三菱電機株式会社、株式会社東芝の二社と共同研究・開発に着手しました。

### ○目的

本共同研究では、重粒子線がん治療装置の省エネ化と、装置・施設の小型化を実現するための研究と開発を行います。この取り組みで開発された技術は、山大に設置を目指している当該施設への導入だけでなく、海外普及モデルとしても評価されることを目指しています。

### ○研究の概要

- (1) 電磁石群の省電力化運転制御の研究・開発
- (2) 電磁石本体の省電力化の研究・開発
- (3) 超伝導電磁石の研究・開発
- (4) その他、関連研究・開発等

(お問い合わせ)

山形大学重粒子線がん治療施設設置準備室 河野  
(TEL) 023-628-5404

平成25年8月6日  
山形大学

## 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択

「地（知）の拠点整備事業」に全国から319件の申請があり、山形大学で申請した【自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成】が採択されました。（全採択件数52件）

### ◇目的等

本事業は、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援することで、学内組織が有機的に連携し、「地域のための大学」として全学的に地域再生・活性化に取り組み、教育カリキュラム・教育組織の改革につなげるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には自治体と大学が早い段階から協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。

これにより、学生が大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するとともに、大学のガバナンス改革や各大学の強みを活かした大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学を形成するものです。平成25年度予定額：23億円（全国）（大学改革推進等補助金）

### ◇採択された事業

#### 自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成

我が国人口は今度約40年で現在の70%程度にまで減少すると推定されている。とりわけ東北地方は急激な人口減少に見舞われる地域であり、山形県は全国で5指に入る人口減少県となっている。少子化による人口減少・過疎化、高齢化による生産年齢人口の急激な落ち込み、社会・経済の急激な縮小によるコミュニティーの崩壊、過疎化による行政サービスコストの飛躍的な増大等々の複合的に一体化した直面する問題を解決するためには、社会・経済の拡大を前提に効率性を追求してきた都市（一極）集中型社会システムではなく、各地域社会が自立性を保ちながら連携して持続可能な定常社会を構築する自立分散型社会システムを構築することが求められている。本申請に係る事業は、山形大学の教育、研究、社会貢献の地域志向性を高めることにより、この自立分散型社会システムの構築に寄与し、運営していく人材を育成する。

(全体計画)

山形県及び県内市町村の最大の課題は、急激な人口減少にどのように対応するか、急激な人口減少下において持続可能な安定した地域社会をどのようにして構築し得るかということにある。この課題は、今後、全ての政策立案にとって、通奏低音のように響くものであり、産業政策、農業政策等々の個々の諸政策は、人口減少への対応という点を無視しては、単なる弥縫策に終始し、政策効果は発揮され得ないか、発揮したとしても極めて短期的、局所的なものにとどまらざるを得なくなる。

山形大学東北創生研究所において、これまで、人口減少への対応について、山形県や県内市町村と議論を重ねてきたところ、異口同音に、年来の人員削減により、行政全体が日常業務に追われており、中長期的な課題に対応するために必要な検討を重ねる余裕がないことを訴えられた。県庁ですら、調査等に人員を割けず、政策立案に必要な実情の把握すら十分にできない状況にあり、調査研究だけではなく、職員の再教育を含めた人材育成の面でも山形大学の協力を求めたいとの強い要望が示された。

山形大学は、地域が必要とする人材の育成につながる教育、人材育成教育に必要な研究及び地域の課題解決に必要な研究、教育、文化、医療等の分野における社会貢献を通して、今後も地域社会の要請に積極的に応え、地域の再生・活性化を実現するために寄与していく。

教育においては、地域の政策に直結する人文・社会科学の分野だけではなく、自然科学の分野においても、地域の課題に関する十分な知識とそれに対応するために必要な感覚を持って、専門的知識を地域のために活用できる人材の育成を推進する。そのためには、対象「地域」の自治体の協力を得ながら実習形式の授業科目数をさらに増やし、地域ないし地域の課題を授業テーマそのものとする授業や、地域ないし地域の課題を授業テーマに取り込んだ授業を増やす。また、学生の地域志向を高めるため、インターンシップを積極的に活用する。

研究においては、地域の要望にこたえての課題の解決に必要な研究を行い、その成果を地域に還元するという従来から推進してきた共同研究、受託研究等を積極的に推進するとともに、地域が求める高度の専門的知識を有する人材育成教育を充実させていくために必要な研究（教育方法等、教育の分野そのものの研究ではなく、人材育成教育のテーマとなり得る研究課題の発掘等、教育の基礎となる研究を含む。）を積極的に推進していく。そのために、教員の目を地域へ向けさせ、地域を対象・フィールドとした研究を、実習教育等と一体化して推進するとともに、地域の課題を掘り起こし、その解決を図る研究を推進する。

社会貢献においては、公開講座、開放講座を積極的に開講し、出前講義等で、高等学校教育へ積極的に協力し、科学分野などで小中学校教育に積極的に協力することにより、地域の社会教育及び高大連携等を通して、地域に貢献する人材の裾野拡大に寄与する。

さらに、人材育成のための社会人の再教育について、地域の要望が大きいことから、地域の課題を解決するために必要な社会人のリカレント教育を積極的に推進する。また、ボランティア活動等の学生の社会参加を積極的に推奨し、学生の地域社会への関心を高めることにより、地域を志向した人材育成教育の効果の向上等につなげる。

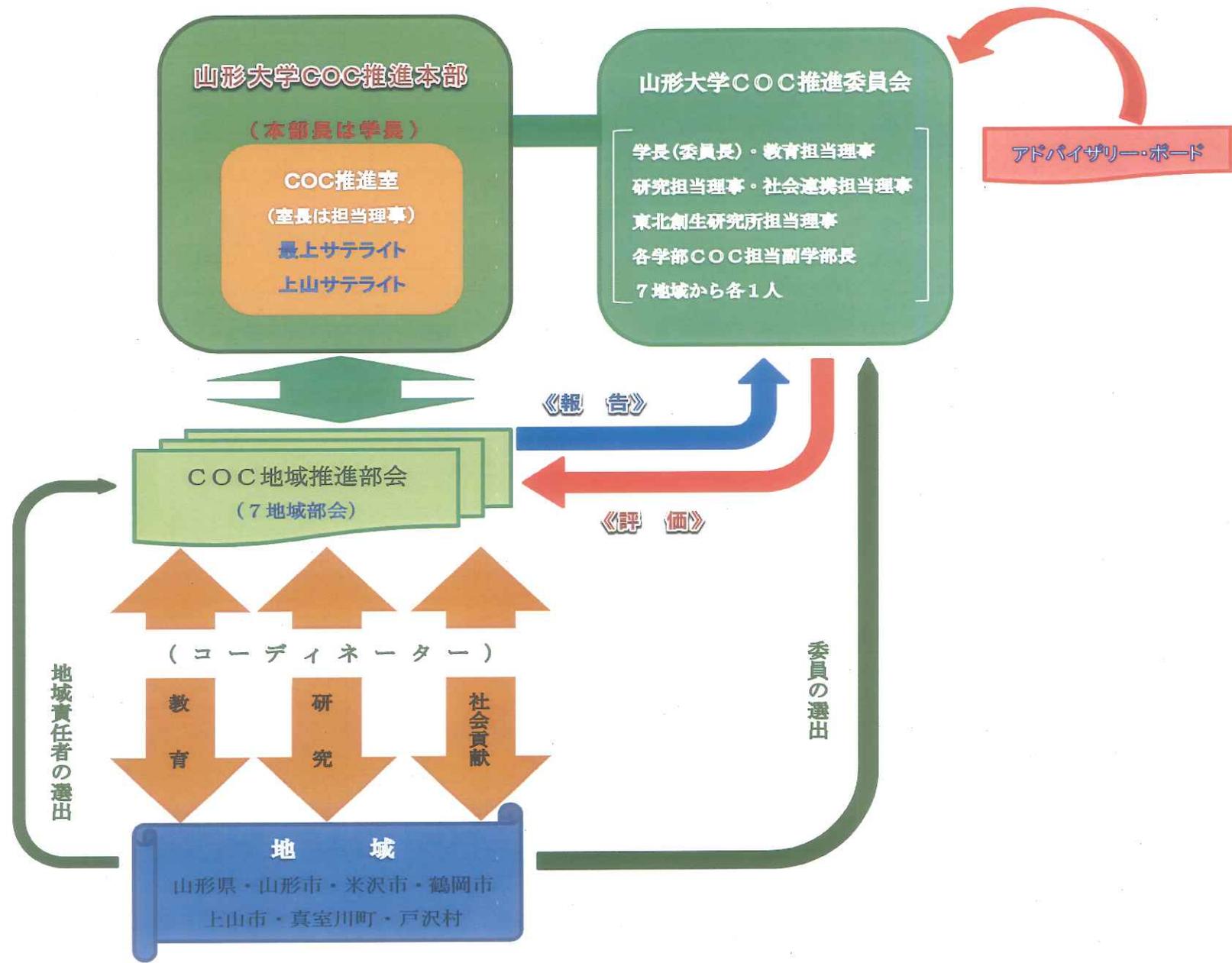
連携自治体：山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、上山市、真室川町、戸沢村

事業期間：5年間（平成25年度～平成29年度）

(お問い合わせ)

山形大学企画部研究支援課

(TEL) 023-628-4839



**山形大学COC推進本部**

(本部長は学長)

**COC推進室**

(室長は担当理事)

最上サテライト

上山サテライト

**山形大学COC推進委員会**

- 学長(委員長)・教育担当理事
- 研究担当理事・社会連携担当理事
- 東北創生研究所担当理事
- 各学部COC担当副学部長
- 7地域から各1人

アドバイザー・ボード

**COC地域推進部会**

(7地域部会)

(コーディネーター)

教育

研究

社会貢献

**地域**

山形県・山形市・米沢市・鶴岡市  
 上山市・真室川町・戸沢村

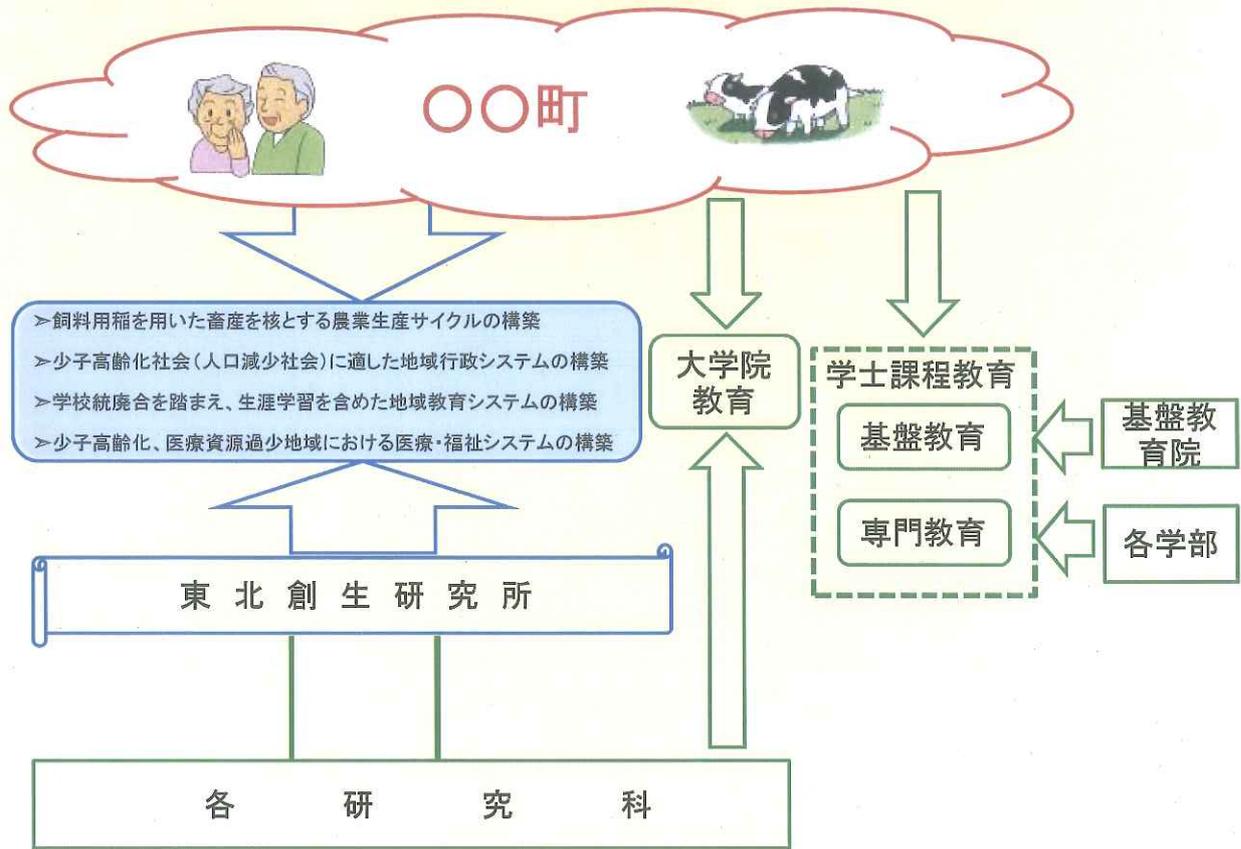
《報告》

《評価》

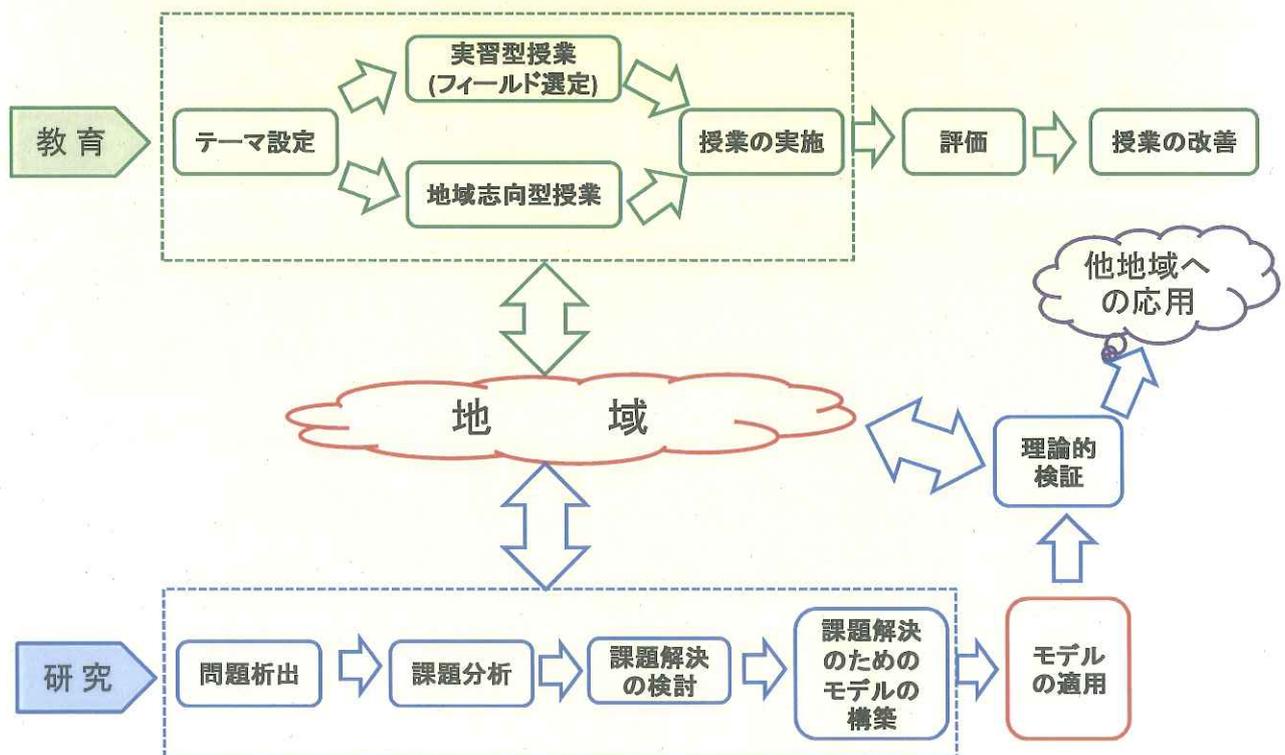
地域責任者の選出

委員の選出

# ① 取組の例



# ② 教育・研究の進め方



# 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）

（新規）

平成25年度予定額：23億円

大学改革推進等補助金

## 背景・課題

- これまで大学に対して、「大学の教育研究が、地域の課題に十分にできていない」「学生が大学で学んだことが、地域に出てから役立っていない」「地域と教員個人のつながりはあっても、大学が組織として地域との連携に取り組んでいない」との批判があった。
- こうした批判に対応するため、大学全体として地域を指向した教育・研究・社会貢献を進める、地域再生・活性化の核となる大学等（短大・高専を含む）を形成する必要がある。

## 対応・内容

### 【対応】

- 大学内の全組織が有機的に連携し、以下の取組例を複数実施することのみならず、将来的には、教育カリキュラム・教育組織の改革等に繋げていくことができる取組のうち、特に優れたものを支援することで、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図る。
  - ・地域活性化・地域支援の取組
  - ・地域人材の育成・雇用機会の創出
  - ・産学連携や地場産業の振興

### 【内容】

- 地域再生・活性化の核となる大学等を最大5年間支援する。

45,000千円×50拠点

## 政策目標

- 地域再生・活性化の核となる大学等を各都道府県に2カ所（都道府県単位1カ所、市町村単位1カ所）程度として90拠点程度整備する。（都道府県・市町村数（約1,800）の5%程度）
- 大学のガバナンス改革を進めるとともに各大学の強みを活かした機能別分化を推進

平成25年8月6日  
山形大学

## 炊飯せずにアルファ化米 製造装置の開発に成功 —臼挽き（うすびき）方式により投入10秒で可食に— (YU-COE(山形大学先進的研究拠点) 西岡昭博教授)

大学院理工学研究科の西岡昭博教授が、YU-COE（山形大学先進的研究拠点）の支援を受け、株式会社セイシン企業（本社：東京都渋谷区）、有限会社ウエスト（本社：新潟県長岡市）と共同し、炊飯工程を経ずに「粉碎するだけ」で、澱粉を瞬時にアルファ化できる新方式のアルファ化米の製造装置を開発した。

8月29日（木）・30日（金）開催の「イノベーション・ジャパン2013～大学見本市&ビジネスマッチング～」へ出展します。

### （装置の概要・特徴）

- ・本装置の特徴は、炊飯過程を経ずに「粉碎するだけ」で、瞬時にアルファ化できる全く新しい製造方法。
- ・従来、澱粉を主成分とする穀物(米、芋、豆類など)をアルファ化させるためには、必ず大量の水と熱による煮炊きが必要だったが、本技術によれば、水を全く用いることなく加熱下で粉碎するだけで、澱粉を十秒程度でアルファ化することを可能。これにより、高品質化、低コスト化を実現。
- ・粉碎した米粉に水を加えれば、“おかゆ”として食べられる。震災など非常時における介護食、離乳食として利用可能。今後、米以外にも澱粉を主成分とする穀物へ広く応用展開が可能。
- ・本装置は、今秋に販売開始を予定。

### （装置開発のもとになった研究）

- ・西岡研究室は、高分子のレオロジーを主とした研究。専門分野であるプラスチック発泡成形技術を応用し、食品業界では不可能とされた「米粉100%の製パン技術」に世界で初めて成功。
- ・その後の研究により、米に熱を加えて分子の運動性を上げ、これにひく力を加えて分子同士を引き離す理論を確立し、この理論をもとに本装置の開発に成功。
- ・YU-COE（山形大学先進的研究拠点）や、国際事業化研究センター支援プロジェクトして選定されるなど、本学における次世代を担う中核的な研究拠点。

### （「イノベーション・ジャパン2013～大学見本市&ビジネスマッチング～」への出展）

イノベーション・ジャパン2013（国内最大規模の産学マッチングの場）

- ・日時：平成25年8月29日（木）・30日（金）
- ・会場：東京ビックサイト（東京国際展示場）
- ・主催：JST（(独)科学技術振興機構）、NEDO（(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構）
- ・共催：文部科学省、経済産業省、内閣府

### ◆YU-COE（山形大学先進的研究拠点）とは：

国際的に通用する高い水準の研究拠点や、研究成果が社会、地域に大きく貢献する研究拠点に将来なり得る研究グループに対して、山形大学独自で拠点形成支援を行う制度

#### （お問合せ先）

##### ●製品開発に関するもの

理工学研究科 教授 西岡昭博  
(TEL：0238-26-3207)

##### ●その他全般に関するもの

国際事業化研究センター 五味・齋藤  
(TEL：0238-26-3480)

(説明資料)

## 加熱粉碎式アルファ化米粉製造装置

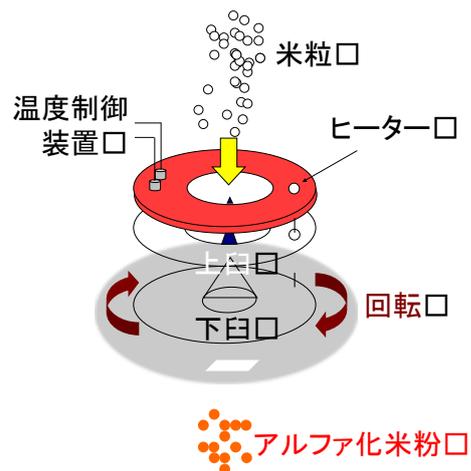
### 1. 背景

アルファ化米は冷水を加えるだけで炊飯状態を再現できるため、炊飯なしで食べることができる機能性食品です。しかし、生産コストが高つくため、販売価格はアルファ化しない普通米の2～4倍程度高く、非常食などの限られた用途にしか用いられていません。簡便、短時間、低コストでアルファ化米を製造できる技術が開発できれば、アルファ化米の応用範囲は飛躍的に広がることになります。

西岡研究室は粉碎と同時に熱を与えることでアルファ化米が瞬時に得られることを発見しました。この発見は、酒造の際に削られる米粉が単に粉碎だけでアルファ化していることに気づいたことがきっかけとなりました。酒造に使用しない米の外側を削る際に、米に強い「ひきつぶす力」と「まさつ熱」が与えられます。これが粉碎だけでアルファ化していた主要因と考えたのです。このブレークスルーが今回の開発につながりました。



(a)装置の外観写真（試作機）



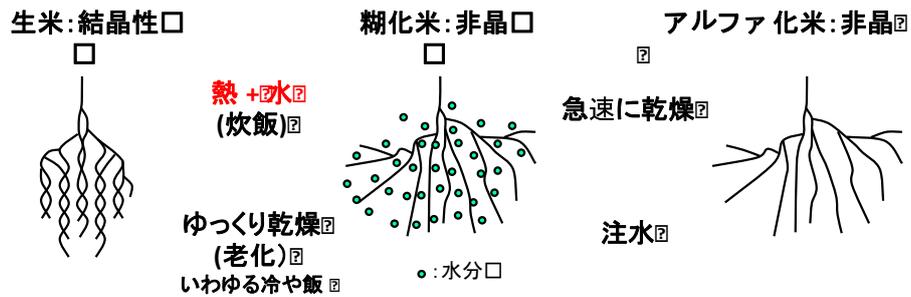
(b)装置構成の概略図

図 1. 加熱粉碎式アルファ化米粉製造装置（今回の成果）

### 2. 成果の特徴

#### (1) 製造工程の簡略化、省エネルギー化に成功

一般に炊飯前の米の状態ではデンプンは高い結晶性を持っており、結晶を崩して消化しやすい状態にするためにはデンプンの結晶性を崩す必要があります。炊飯は水と熱によりデンプンの結晶を崩す工程に対応します。一般に、炊飯した米の水分を一気に除水して結晶性が崩れた状態のまま乾燥・固化したものをアルファ化米と呼んでいます。アルファ化米は冷水を加えるだけで炊飯状態を再現でき、炊飯を必要とせずに食べられるため、非常食などとして最適です。従来手法によるアルファ化米の製造は、炊飯、急速乾燥、粉碎といった複数の工程を必要とし、特に炊飯は必須の工程です。(図2参照)



従来の製造プロセス

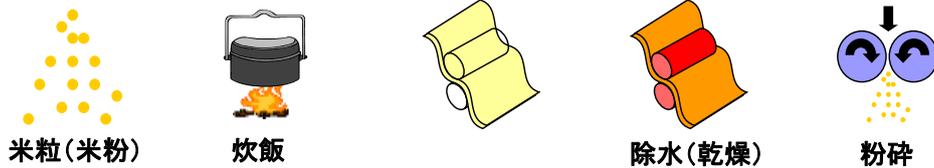


図 2. デンプン分子の構造変化と製造プロセス(従来技術)

一方、今回開発した方法は、炊飯工程を必要とせず、1工程でアルファ化米を製造することを可能としました。(図3参照) 具体的には、原料米に加水するなどの処理をせず、米粒そのままを100~120℃程度に加熱した臼に投入し、せん断力(ひきつぶす力)を主とした粉碎により数秒程度でアルファ化を達成することが出来ます。熱を加えながら粉碎することでデンプンの強固な結晶を崩すことができ、非晶質な状態(=アルファ化)になります。得られた米粉は、従来のアルファ化米と同じように注水すると「とろみ」のある高粘度な状態になります。(図3参照)

従来法に比べ工程数が少なく、臼挽き方式は構造が単純であるため、設備がコンパクトで、清掃・洗浄が容易です。また、炊飯によるアルファ化のように大量の水及びこれを加熱するための大きなエネルギーは必要ありません。臼間で直接加熱することや臼のせん断熱を利用することにより、消費エネルギーを抑えることが可能となりました。



注水時の違い:



さらさら(低粘度)



とろみがある(高粘度)

図 3. デンプン分子の分子構造変化と注水時の様子(本成果技術)

## (2) アルファ化米の高品質化に成功

従来法によるアルファ化米は、色つきや老化、香りの低下といった製造方法に起因した品質の問題がありました。本装置により製造したアルファ化米では、このような問題を抑制できるだけでなく、加熱条件、粉碎条件を制御することにより、アルファ化度の制御や次工程（アルファ化米を使った製品の製造工程）でのハンドリング、製品特性を考慮した製品粒度に調整することが可能となりました。また、アルファ化処理時に加熱するため、原料に付着している菌（一般生菌、大腸菌群）を殺菌した状態で製品を得ることが可能です。さらに、本手法から得られるアルファ化米には色つきの問題がほとんどありません。

## (3) アルファ化度の制御

従来のアルファ化の手法ではアルファ化度を制御することは極めて困難ですが、本手法では、粉碎温度によりアルファ化度を制御することが可能です。アルファ化度の制御により冷水を加えた際の生地粘度を自在に制御できるなどのメリットがあります。

## (4) 米以外の穀物にも適用可能

米以外のデンプンを主成分とする穀物類（そば、小豆等）のアルファ化も可能であり、応用範囲が極めて広いことも特徴です。アルファ化することにより、蕎麦では「蕎麦ムース」、小豆では「即席こし餡」などを簡単に作ることが出来ます。

## 3. 今後の展開（予定）

アルファ化米は生産コストが高いため価格が高く、限られた用途にしか利用されていないのが現状ですが、本装置により低コスト化及び高品質化が可能となり、用途が広がるものと考えております。また、装置がコンパクトであることから小規模の生産が可能であり、他の穀物もアルファ化可能で清掃・洗浄が容易であることから少量多品種のアルファ化穀物の生産が可能です。また、本技術は澱粉をアルファ化する技術であるため、トウモロコシなどのアルファ化を行うことにより高効率なバイオエタノール原料の生産手法としても応用可能です。

今回上市予定の装置は小規模生産を念頭に開発したもので、今後、スケールアップ検討を進め、中規模・大規模生産に対応可能とする予定です。

### 【参考：用語解説】

#### (※1) アルファ化：

米や豆の主成分であるデンプンを水とともに加熱し糊状にすることで消化の良い状態にすることをアルファ化と呼ぶ。アルファ化米は冷水を入れるだけで炊飯状態に戻り、炊飯をしなくても食べられようになるため、一般的には非常食などに多く用いられている。

#### (※2) せん断力：

物体に外力が作用する場合において、物体内部のある面を境にその両側の部分がそれぞれ逆方向にずれる変形をせん断といい、その際にせん断面にかかる力をせん断力という。

#### (※3) 老化：

デンプン分子が非晶質な状態から再び結晶性の高い状態に戻ることを老化（またはベータ化）という。アルファ化はデンプンの結晶性が崩れ非晶質な状態になることを指すため、老化はアルファ化の対義語と言える。

平成25年8月6日  
山形大学

## 山形県内の全ての地域金融機関と山形大学がタッグ —中小企業を支援する「学金連携プラットフォーム」の発足—

山形大学国際事業化研究センターは、山形県内の全ての地域金融機関と連携し「学金連携プラットフォーム」を発足。このたび、同庁の中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業の「地域プラットフォーム」の一つとして登録認定されました。

大学と地域金融機関がこのような連携体を組織すること、かつ同庁の「地域プラットフォーム」として登録認定を受けるのは、全国でも稀な取組みです。

今後は、本学が県内地域金融機関職員を対象に以前から実施してきた「産学金連携コーディネータ研修」と今回の「学金連携プラットフォーム」の2事業を相互に連携できるスキームを構築していく予定です。

### 【参画金融機関(3銀行、4信金、3信組)】

北郡信用組合、きらやか銀行、荘内銀行、新庄信用金庫、鶴岡信用金庫、山形銀行、山形信用金庫、山形第一信用組合、山形中央信用組合、米沢信用金庫 (50音順)

### (1) 山形大学「学金連携プラットフォーム」とは

- 中小企業・小規模事業者の経営課題・相談ニーズにきめ細かく対応するため、本学が代表機関となり地域金融機関と連携し発足。このたび、中小企業庁による「中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業(以下「本支援事業」という。)(※1)」の「地域プラットフォーム」として登録認定を受けた。(平成25年7月16日登録認定)  
(※本登録認定の条件として、プラットフォーム代表機関が、同庁が認定する「経営革新等支援機関」であることとなっているため、今回、山形大学として国立大学法人では初めての認定を受けた。)
- 本プラットフォームの具体的な業務は以下のとおり。
  - ①各金融機関の産学金連携コーディネータ等が、企業からの相談について経営課題の抽出及び整理を行う。
  - ②専門性の高い経営課題については、本学と相談し課題を整理した上で、本支援事業にて構築された「専門家データベース」や大学研究者の中から当該課題にあった専門家をコーディネートし、企業の課題解決にあたる。

### (2) プラットフォームの発足に至った背景

- 本プラットフォームの発足が円滑に進んだ背景には、山形大学が県内金融機関との協力のもと、6年前から金融機関職員を対象とした事業目利き人材の育成のための「産学金連携コーディネータ研修」を実施してきたこと(受講実績214名)がある。今回のプラットフォームでは、この研修により育成された人材(産学金連携コーディネータ)が核となり、企業の課題解決の支援業務にあたる。
- 本研修は、今年度も実施を予定しており、未だ産学金連携コーディネータを配置していない金融機関を含めた本プラットフォーム参画金融機関すべてに参加を呼びかける。なお、更なるスキル向上を目的として実施する「スキルアップ研修」は、経済産業省(中小企業基盤整備機構)から「高度実践型支援人材育成事業」の採択(※2)を受け実施する。

### (※1) 中小企業庁による「中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業」

100万社以上の中小企業・小規模事業者や起業を目指す者と、1万人以上の専門家・先輩経営者等が参画し、時間・場所にとらわれずに自由に経営・起業に関する情報交換や相談等ができる『支援ポータルサイト』を構築するとともに、高度な経営分析等を行う『専門家の派遣』を実施し、中小企業等の新たなビジネス創造や経営改革等をサポートする事業。

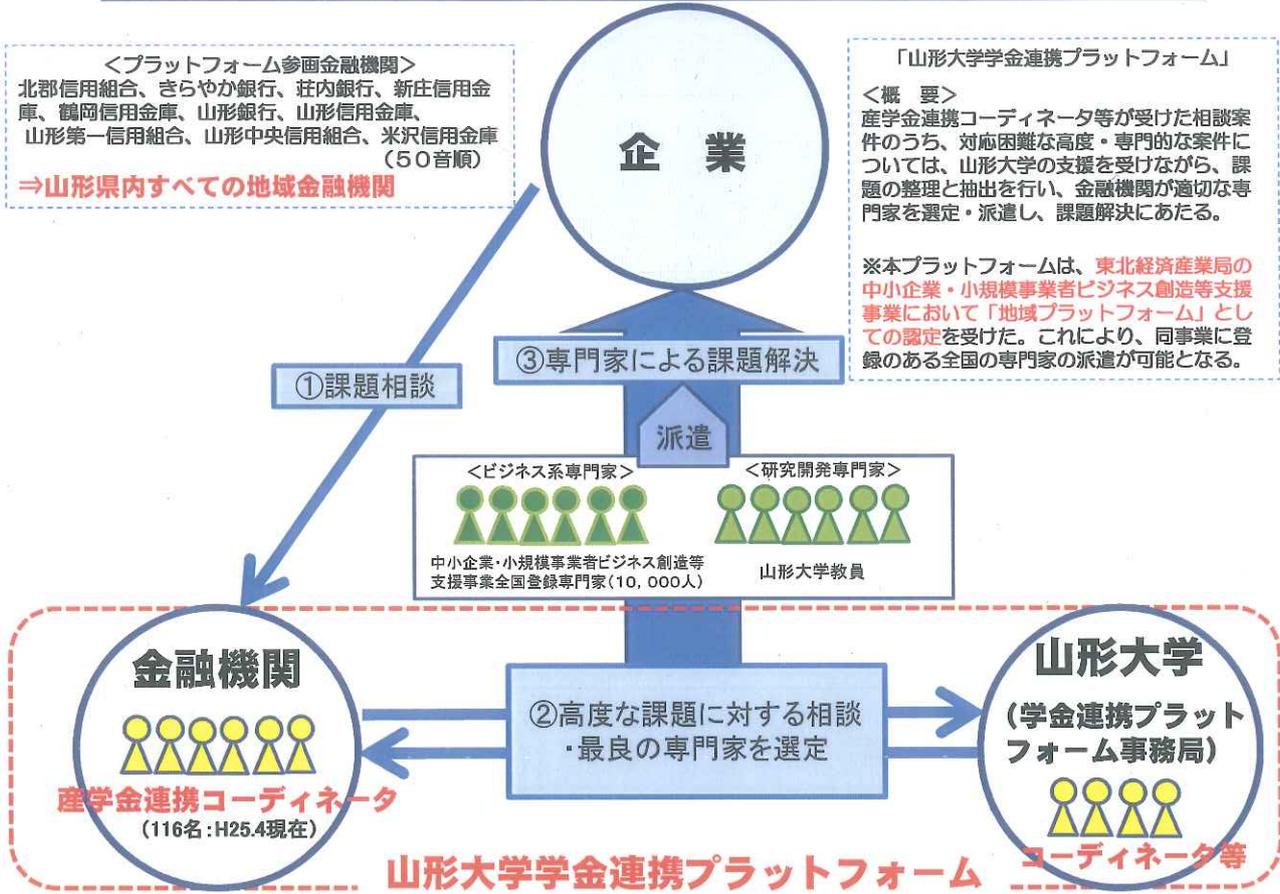
### (※2) 経済産業省(中小企業基盤整備機構)による「高度実践型支援人材育成事業」

経営支援に優れた実績及び専門的知識等を有する機関が、中小企業者への経営支援を行う者を対象に、実践的経営支援のための研修を行う事業

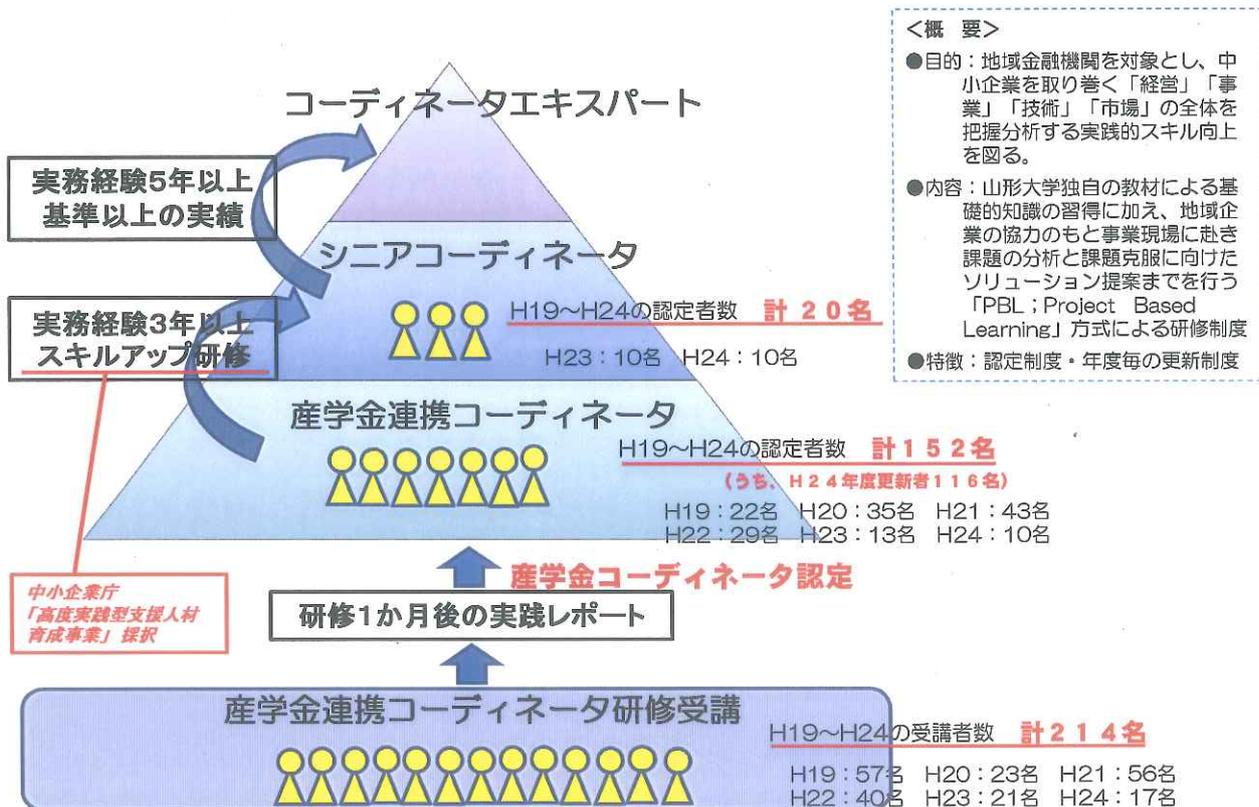
### (お問合せ先)

国際事業化研究センター 副センター長 小野浩幸  
事務担当 五味・齋藤 (TEL: 0238-26-3480)

# 山形大学学企連携プラットフォームによる企業支援スキーム



# 山形大学認定産学企連携コーディネータ制度



平成25年8月6日  
山形大学

## アフリカ地域の農業関係者が山形大学農学部で研修を開始します

8月19日（月）より、本学農学部において、アフリカ10カ国16名の研修生が、稲作の収穫後処理技術について学ぶ「アフリカ地域稲作収穫後処理コース」の研修を開始します。独立行政法人国際協力機構（JICA）からの依頼を受け、稲作収穫後処理の研修を受け入れるのは、国内では山形大学のみ。

### ◆背景

アフリカ開発会議（TICAD）の行動計画の一つである、アフリカ諸国におけるコメ生産量を平成20年度から10年間で倍増させる支援策の一つとして、収穫後処理技術の習得は、生産量を増加させるための重要な課題とされています\*。

農学部においては、独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する地域別・国別研修の一つとして、平成20年度より安藤教授と夏賀教授が中心となり研修を受け入れてきました。

### ◆概要

研修期間：平成25年8月19日（月）～9月26日（木）

研修参加国：スーダン、エチオピア、ガーナ、ケニア、ナイジェリア、ウガンダ、タンザニア、カメルーン、コートジボワール、モザンビーク（10カ国）

使用言語：英語

研修内容：英語圏アフリカ諸国を対象とした稲作収穫後処理技術の習得と普及のための研修（研修スケジュール別添）

受入コーディネータ：安藤 豊 教授（農学部安全農産物生産学コース）

夏賀 元康 教授（農学部安全農産物生産学コース）

- ・研修生は、各国の農業省庁職員や研究者など。
- ・日本有数の米どころ庄内で、研究機関や行政、JA、生産者の協力を受けながら、農学部での講義を中心に鶴岡市内の圃場や乾燥施設、農業機械工場などの見学、地元の農家での刈取り適期の実習など、庄内地方の稲作技術の発展から最先端の稲作収穫後処理（ポストハーベスト）技術まで幅広い技術を学ぶ。
- ・研修生は農学部で習得した技術を生かして、今後のアフリカ諸国におけるコメ生産量の増加を目指す。

\*アフリカ諸国の食料増産及び農業生産性向上への支援（コメ生産拡大等）は、第4回アフリカ開発会議（開催：2008年5月）において、TICADプロセスが達成すべき目標とそのため必要な具体的手段として行動計画に掲げられています。

（お問合せ先）

農学部企画広報室

電話 0235-28-2910

平成25年度地域別研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理」コース  
研修日程

\*スケジュールは天候により直前に変更する可能性があります。

月	日	曜	午前 内容	午後
8	19	月	集合・スケジュール説明・自己紹介・大学案内	各国のポストハーベスト・庄内、日本の農業
	20	火	問題点に関する討議(プレアクションプラン)	問題点に関する討議(プレアクションプラン)
	21	水	Site Specific Nutrient Management	Site Specific Nutrient Management
	22	木		
	23	金	水稲害虫について	圃場研修(14:00-、山大農場)
	24	土	自主研修	自主研修
	25	日	自主研修	自主研修
	26	月	稲生理生態の基礎と栽培技術	稲生理生態の基礎と栽培技術
	27	火	適期収穫期などの重要性、適期判定法(講義)	適期収穫期などの重要性、適期判定法(実習)
	28	水	稲と水	JAの役割
	29	木	農業機械の変遷	農業機械の変遷
	30	金	農業機械の変遷	農業機械の変遷
	31	土	農試参観デー参加	自主研修
9	1	日	自主研修	自主研修
	2	月	機械展示会	機械展示会
	3	火	問題点に関する討議(プレアクションプラン)	問題点に関する討議(プレアクションプラン)
	4	水	JA鶴岡の圃場巡回	水稲生育・収量と窒素(講義)
	5	木	農業機械工場見学	農業機械工場見学
	6	金	圃場を中心とした稲作作業	圃場を中心とした稲作作業
	7	土	自主研修	自主研修
	8	日	自主研修	自主研修
	9	月	日本の稲作の農業機械化(講義)	種子生産の現場
	10	火	窒素の動態と稲の生育・収量	窒素の動態と稲の生育・収量
	11	水	糸状菌によるコメの変質	イネ病害の視察
	12	木	ポストハーベストの管理、害虫の観点(講義)	貯蔵食品害虫について
	13	金	日本の灌漑	灌漑設備見学
	14	土	自主研修	自主研修
	15	日	自主研修	自主研修
	16	月	自主研修	自主研修
	17	火	普及について	庄内の農業概説・種子生産の現場
	18	水	庄内の育種の現況	庄内の育種の現況
	19	木	種子生産	種子生産
	20	金	日本の稲作の農業機械化(講義)	農家の乾燥施設や実際(見学)
	21	土	自主研修	自主研修
	22	日	自主研修	自主研修
	23	月	自主研修	自主研修
	24	火	稲作のポストハーベスト(1)	稲作のポストハーベスト(2)
	25	水	水分と品質測定(実習)	総合討論(アクションプラン)
	26	木	総合討論(アクションプラン)	評価会議

平成25年8月6日  
山形大学

## 「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」

### 講演会「国際法と人権」を開催

山形大学で実施している、「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」において、安達博士の業績を皆様によりよく理解していただくために、学生・一般市民を対象に、「国際法と人権」をテーマに講演会を開催します。

山形大学では、山形が生んだ世界的な偉人、安達峰一郎博士に光をあて、その業績を正当に評価し、県民の皆様が誇りとしていただけるよう、研究プロジェクトを立ち上げ、積極的に研究を進めています。

このたび、本研究プロジェクトにおいて、総括的な立場からご指導していただいている国際司法裁判所判事（前所長）小和田 恆氏と、元国際司法裁判所判事トーマス・バーゲンソール氏をお招きし、国際法と人権についての講演会を開催します。

#### ◆実施概要

日時：平成25年9月6日（金）14:00～16:30

会場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館 221教室

講演内容：

「アウシュヴィッツの体験と人権の擁護」（英語、通訳付）  
トーマス・バーゲンソール 元国際司法裁判所判事

「人権と国際司法裁判所の役割」  
小和田 恆 国際司法裁判所判事（元所長）

対象：学生・一般市民（参加無料）

（お問合せ先）  
総務部総務課総務担当  
電話 023-628-4004

山形大学「安達峰一郎」研究プロジェクト講演会

# 国際法と人権

「アウシュヴィッツの体験と  
人権の擁護」(英語・通訳付)

トーマス・バーゲンソール 元国際司法裁判所判事

「人権と国際司法裁判所の役割」

小和田 恆 国際司法裁判所判事(元所長)

2013年

9月6日(金)

14:00~16:30

安達  
峰一郎

山形大学 小白川キャンパス  
基盤教育2号館 221教室

[対象] 学生・一般市民

入場無料

申込方法 TEL・FAX・E-mailのいずれかでお申込み下さい。

問合せ・申込先 山形大学 〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12  
TEL: 023-628-4006 FAX: 023-628-4013 E-mail: somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催: 山形大学 総務部

# 山形大学「安達峰一郎」研究プロジェクト講演会 〈参加申込書〉

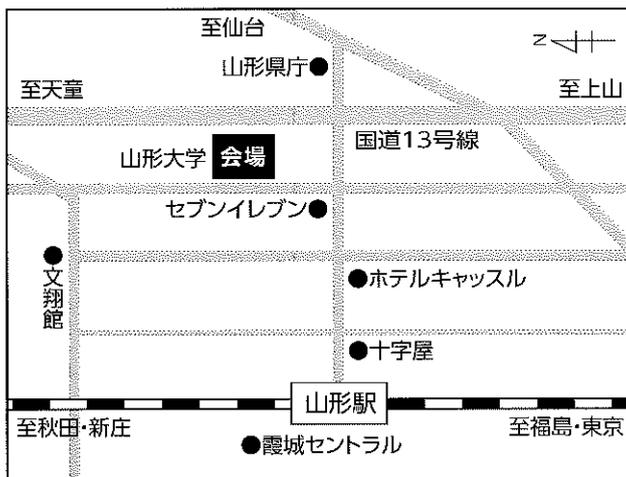
お申込みは、8月16日(金)頃までにE-mail又はFAXでお願いします。  
なお、E-mailの場合は、下記の全項目を入力の上、送信願います。

**FAX** 023-628-4013

**E-mail** [somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

氏名	ふりがな	年齢	
住所 (所属)	連絡先	電話	
		メール	
氏名	ふりがな	年齢	
住所 (所属)	連絡先	電話	
		メール	
氏名	ふりがな	年齢	
住所 (所属)	連絡先	電話	
		メール	
氏名	ふりがな	年齢	
住所 (所属)	連絡先	電話	
		メール	
氏名	ふりがな	年齢	
住所 (所属)	連絡先	電話	
		メール	

※個人情報とは本事業以外には使用しません。



## 会場

**山形大学 小白川キャンパス**  
**基盤教育2号館 221教室**

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12  
TEL:023-628-4006 FAX:023-628-4013  
E-mail:somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成25年8月6日  
山形大学

## 1. 基盤教育科目「フィールドワーク山形の酒造りと文化」 タケダワイナリーで実習

基盤教育科目「山形に学ぶ」は、学生自らが実践的な経験を通じて、山形への理解を深めることを目的としています。その中で、基盤教育院 荒木志伸准教授が担当する「フィールドワーク山形の酒造りと文化—ワイン編—（地域学）」の授業では、タケダワイナリーから全面的にご協力をいただき、実習を行うこととなりました。

- ◆日時：〔1期目〕8月28、29、30日  
〔2期目〕9月2、3、4日  
〔3期目〕9月5、6、9日 毎日、それぞれ9:00～17:00頃

◆実習地：タケダワイナリー(上山市)

◆参加者：山形大学学生 約10名

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

## 2. 第2回 最上義光没後400年記念 「最上義光シンポジウム」の開催

山形大学都市・地域学研究所では、2010年度以来「山形偉人再発見プロジェクト」を継続しており、2013年が最上義光没後400年にあたるために、今年度は最上義光に注目して、6月に開催した第1回シンポジウムに続き、第2回のシンポジウムを開催します。

- ◆日時：9月14日（土）13:00～17:00まで
- ◆場所：山形大学 基盤教育2号館222教室
- ◆入場料：無料(ただし、資料代として100円)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

## 3. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマに、「やまがた夜話」を開催し、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話しをしていただきます。

9月は、『もう一つの山形の顔 ～山形レトロ館の歩み～』をテーマに4回開催します。

- ◆日時： ※全日、18:30～19:30まで  
9月4日（水）小林 和彦氏 （山形歴史たてもの研究会）  
11日（水）酒井 信一郎氏 （上山まちづくり塾）  
18日（水）小林 和彦氏 （山形歴史たてもの研究会）  
25日（水）小林 和彦氏 （山形歴史たてもの研究会）

◆場所：ゆうキャンパス・ステーション（山形市：山形むらきさわビル1階）

◆対象：高校生・学生・一般市民 定員50名（参加費は無料）

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

○やまがた夜話(8月)

8月は、『山形発 ～食の魅力と可能性～』をテーマに4回開催します。

◆日時： ※全日、18:30～19:30まで

8月21日(水) 鹿野 一郎 氏(山形大学大学院理工学研究科 准教授)

22日(木) 滝田 潤 氏(日東ベスト(株)中央研究所)

27日(火) 西岡 昭博 氏(山形大学大学院理工学研究科 教授)

28日(水) 五十嵐喜治 氏(山形大学名誉教授)

◆場所：ゆうキャンパス・ステーション(山形市：山形むらきさわビル1階)

◆対象：高校生・学生・一般市民 定員50名(参加費は無料)

[ 詳しくは、別添の資料をご覧ください ]

平成25年8月6日  
山形大学

## 基盤教育科目「フィールドワーク山形の酒造りと文化」 タケダワイナリーで実習

基盤教育科目「山形に学ぶ」の一つ、「フィールドワーク山形の酒造りと文化—ワイン編—（地域学）」の授業において、タケダワイナリーで実習を行います。

日時：〔1期目〕8月28、29、30日  
〔2期目〕9月2、3、4日  
〔3期目〕9月5、6、9日  
毎日、それぞれ9:00～17:00頃

実習地：タケダワイナリー(上山市)

参加者：山形大学学生 約10名



### ○授業の目的

山形大学では、より豊かな人間力の育成を目指し、平成22年度入学生から新しい教育カリキュラム「基盤教育」を導入しています。この授業では、学生自らが実践的な経験を通じて、山形への理解を深めることを目的としており、このたび、タケダワイナリーから全面的にご協力をいただき、フィールドワーク授業を実施することとなりました。

山形県は、県内に11社のワイナリーがあり、山梨県や長野県に次ぐワイン生産地です。いずれも品質の高さにおいて、首都圏やワインジャーナリストから注目されており、こうした高評価の要因ともなっている、ワイナリー各社の日頃の努力や、県産品のありかたを学ぶことで、風土への理解を深めることが期待されます。

### ○授業概要

タケダワイナリーは1920年の開園以来、「良いワインは良いぶどうから」をモットーに、土づくりから始めたぶどう栽培、ワイン醸造を続けています。20年の歳月をかけた土壌作り、自然農法栽培などの特色ある取り組みは、全国から注目され、沖縄サミット（2000年）や北海道洞爺湖サミット（2008年）ではレセプションの際の乾杯用シャンパンとしても選定されました。

実習では学生たち自らがワイン作りの工程に参加し、その精神に触れながら山形のモノ作りの奥深さに触れていきます。

(お問合せ先)  
基盤教育院准教授 荒木 志伸  
(TEL) 023(628)4974

第2回 最上義光没後400年記念

# 最上義光 シンポジウム



最上義光没後400年。6月23日の第1弾に引き続き、最上義光研究最新の成果を語り合うシンポジウム第2弾。

開催日時：2013年9月14日(土)13:00～17:00

開催場所：基盤教育院2号館 222教室

入場料：無料(但、資料代100円)

※申込の必要はございませんので、お気軽にお越し下さい。

但し、駐車スペースに限りがございます。なるべく公共機関のご利用をお願い致します。



## 講師

横山昭男(山形大学名誉教授)

近世城下町山形の成立と最上義光

伊藤清郎(山形大学地域教育文化学部教授) 長谷堂合戦について(仮)

コーディネーター

松尾剛次(都市研所長)

室光院旧蔵文殊像



山形城下絵図



## 問い合わせ先

山形市小白川町1-4-12

山形大学人文学部松尾研究室

TEL・FAX 023-628-4917

又は山形大学人文学部総務課

TEL 023-628-4203

主催：山形大学都市・地域学研究所  
山形の偉人再発見プロジェクト2013

## 賛助会員紹介

宝光院	様
トヨタカローラ山形 (株)	様
(株) シェルター	様
(株) カキザキ	様
(株) 三陽製作所	様
山形建設 (株)	様
(株) 山形グランドホテル	様
(株) シベール	様
坂部印刷 (株)	様

# やまがた夜話

テーマ

『もう一つの山形の顔 ～山形レトロ館の歩み～』

9月4日(水) 18:30～19:30

「今も息づくレトロ建築」

小林 和彦 氏 (山形歴史たてもの研究会)

9月11日(水) 18:30～19:30

「上山の歴史的建造物と現在」

酒井 信一郎 氏 (上山まちづくり塾)

9月18日(水) 18:30～19:30

「失われし山形のレトロ建築と、街角のにぎわい」

小林 和彦 氏 (山形歴史たてもの研究会)

9月25日(水) 18:30～19:30

「建物と市民の姿 -旧西村写真館の写真資料より-」

小林 和彦 氏 (山形歴史たてもの研究会)

**会場** ゆうキャンパス・ステーション  
(山形むらさきさわビル1階)

**アクセス** 山形駅東口より徒歩1分

**対象** 高校生・学生・一般市民  
定員: 50名

**入場無料**

**お申し込み** 電話又はチラシ裏面の参加  
申込書に必要事項を記入の  
上Fax、郵送、メール等でお  
申し込みください。



主催

大学コンソーシアムやまがた  
山形市

後援

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階  
Tel: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820  
E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



大学コンソーシアムやまがた



FAX:023-628-4820

## 大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成25年 9月 4日(水) 講師: 小林 和彦 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 9月11日(水) 講師: 酒井 信一郎 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 9月18日(水) 講師: 小林 和彦 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 9月25日(水) 講師: 小林 和彦 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

### 【お申込み・お問合せ先】

#### 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



# やまがた夜話



テーマ 『山形発 ～食の魅力と可能性～』

8月21日(水) 熱と流れと食品にかかわるお話

18:30～19:30

—食品乾燥と植物工場—

鹿野 一郎 氏 (山形大学理工学研究科准教授)

8月22日(木) 県産素材の良さを再発見! —山形県特産品の魅力—

18:30～19:30

滝田 潤 氏 (日東ベスト株式会社中央研究所)

8月27日(火) 工学技術から米粉100%パンができる!?

18:30～19:30

—プラスチックとパンの意外な共通点—

西岡 昭博 氏 (山形大学理工学研究科教授)

8月28日(水) ベリー類の魅力とは? —健康と山形風土から考える—

18:30～19:30

五十嵐喜治 氏 (山形大学名誉教授)

会場 ゆうキャンパス・ステーション  
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加  
申込書に必要事項を記入の  
上Fax、郵送、メール等でお  
申し込みください。

**入場無料**

定員:50名



主催

大学コンソーシアムやまがた  
山形市

後援



大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階  
TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820  
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月21日(水) 講師: 鹿野 一郎 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月22日(木) 講師: 滝田 潤 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月27日(火) 講師: 西岡 昭博 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月28日(水) 講師: 五十嵐喜治 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp